

～市民がつくる～
三木市男女共同参画センター情報誌

こらぼよ

こらぼーよとは
Collaboration
コラボレーション
(共同・協働)と
～しようよの組合せ

みんなで
男女共同参画社会実現
に向けて活動しようよ

第64号 2023・春

春号のテーマは
男性のジェンダー



ジェンダー平等を実現しよう

主夫日記「男性の生きづらさ」

男性も「育児休業」を取りやすい社会へ

男女共同参画週間記念講演会

日時:令和5年7月2日(日)13時～14時30分

場所:三木市立教育センター4階 大研修室

演題:男女共同参画～男らしさの呪縛からの解放をめざして～

講師:伊藤 公雄さん(京都産業大学教授)



毎年6月23日から6月29日は男女共同参画週間です。
令和5年度のキャッチフレーズは“なくそう思い込み、守ろう個性 みんなでつくる、みんなの未来”
です。この期間、市役所正面玄関にて啓発パネル展を開催します。
ぜひ、お立ち寄りいただき、ご高覧ください。



新コーナー「ジェンダーレンズで何が見える？」誰もが生きやすいわたしたちのまち

男性も「育児休業」を取りやすい社会へ

40代で子どもができたある夫婦のお話。比較的休みが取りやすい職場の夫に育休を取って欲しいと妻が希望したところ「無理、無理。そんなん取ってる人誰もおらん」と、断われたそうです。「夫が若い人たちのロールモデルになればと思ったが、育休を取る気は全くなかった。」と残念がられていました。

*ユニセフの発表によると日本の育児休業の制度は、父親に認められている育児休業期間が最も長く世界一整っていると評価されています。にもかかわらず、取得率は非常に低いという現状があります。令和3年度の男性の育児休業取得率は13.97%（厚生労働省2022年「育児・介護休業法の改正について」）。これでは、女性がワンオペ育児（育児を1人でこなすこと）状態になるのも仕方ないことでしょう。

*2021年にユニセフが公表した「先進国の子育て支援の現状」によると、男性の育休期間が最も長いことが評価され育児休業の項目で1位を獲得しました。

女性が仕事を続けるためには、夫婦共に仕事と育児を両立することが必要です。二人で協力し合って家事・育児をするためには男性の育児休業の取得が不可欠。ただ若い夫婦に育児休業を取りたい意思はあっても、「会社の雰囲気」「他の人に迷惑がかかる」「給料が減る」などが原因で育児休業を取れていないのが現状です。結局育児休業の制度に意識が追いついていないのでしょう。

身近にいる18歳の女性から「努力してやっと就いた仕事と育児の両立ができないなら、子どもはいらないかな」と言われたことがあります。男性の育児休業の取得率の低さは、日本の少子化の原因のひとつになっていると考えられます。

「育休を取るのは当たり前」という社会にするためには、何ができるのでしょうか。「育休を取った社員の同僚に一時金を支給」と発表した会社が話題を集めましたね。

また、「産後パパ育休（出生時育児休業）」という制度が令和4年10月から施行され、首相が育児休業給付金の引き上げを表明するなど、国の政策でも育休を推進しています。「育休が取れる企業」というアピールができれば、優秀な人材が集まるなど、採用に良い影響を与えるとも言われています。

今の若い世代は、家事を分担することに抵抗が少なく「一緒に子育てをしたい」と思っている夫婦が多くなっています。男性の育児休業を後押しする政策も進んでいるので、あとは私たちの意識を変えること。そのためにも、企業・社会の理解が深まる必要があります。

ジェンダーを問わず育休を取りやすい職場環境となるよう社会も応援していきましょう。

(編集委員O)



新コーナー「ジェンダーレンズ」で何が見える？誰もが生きやすいわたしたちのまち について

ジェンダーレンズとは、性別の違いによって生まれている政治・経済活動への参画や教育水準、健康面における男女格差をなくすためにジェンダーを意識したレンズ（めがね）をかけて世界を見ようという考え方です。



主夫日記「男性の生きづらさ」

こんにちは。いつも主夫日記にお付き合いありがとうございます。

皆さんは普段の生活でどんなことを大切にしていますか？今回の主夫日記は男性の生きづらさ。僕が主夫になるまでと主夫になってからのお話です。

会社員時代の僕は、時期によって平日は遅い時間まで働き週末は趣味のために出勤を避ける働き方と、残業せず早く帰り家事をする働き方の2通りの働き方をしていました。(週休2日制でしたが、仕事の状況で土曜出勤がありました。)

家事をする時間を取るようになったのは、15年ほど前。家族が病気になったのがきっかけです。最初は夕食の準備だけでしたが、その後さらに家族の病気が悪化し、僕が家事全般も受け持つことになりました。会社での業務負担を減らしてもらうよう上司に相談したところ、これまで実績を作ってきた仕事から離れ、単純作業の現場に異動になりました。

残業せずに働かせてもらったのは少しの間で、景気が良くなり仕事量が増えると残業せずに働くことが出来なくなっていました。働き方について会社と交渉して雇用形態をパートに変えてもらうことも考えたのですが、会社を辞めて主夫になる選択をしました。

会社を辞めた当初、昼間に買い物に行くのはご近所の目が気になり、夕方、仕事帰りの時間帯に買い物に行っていました。僕は仕事を辞めて人目を気にしているのに、同い年の女性は「仕事辞めてん」と気楽に話しているのが羨ましかったです。当時の僕にとっての男性の役割は、家計を支えるもの。いろいろな困り事も自分で解決するものと思っていました。この考え方が僕の生きづらさにつながっていたのです。

今は、「僕の家には僕の家族に合わせた役割分担があるねん！」と考えるようにしています。これからは周りの人の力も借りながら、威張らず、甘えず、自分らしく生活していきたいと思っています。

女性の役割が変わってきている現代、男性の役割と意識もそれに合わせて見直しが必要なようです。1970年代末頃から男性の*ジェンダーを研究しておられる伊藤公雄先生が、今年の7月2日に三木市男女共同参画週間記念講演会で講演して下さるそうです。

お話をうかがって、みんなが生きやすいように僕たちの意識を変えるきっかけになったら良いなと思います。みなさんも一緒にいかがですか？

(編集委員1)

*生物学的な性別 (sex) に対して社会的、文化的に作られる性別 (gender) (男性と女性の役割の違いによって生まれる性別)

*** 今後の男女共同参画センター主催の講座

★要事前申込 ***

テーマ	講師	日時	会場
～伝わる話し方で～ 面接攻略セミナー	川邊 暁美さん (言の葉OFFICE かのん代表)	令和5年7月15日 10時～12時	教育センター3階 セミナー室
女のものさし・男の定規	黒崎 輝美さん (健康いきがづくりアドバイザー)	令和5年7月19日 10時～11時30分	緑が丘町公民館
少子高齢化時代の男女の役割	小川 真知子さん (NPO法人SEAN 理事長)	令和5年8月22日 10時～11時30分	自由が丘公民館



ジェンダー平等を実現しよう

日本はかつて、「男は仕事・女は家庭」という男性中心の社会構造のもとで目覚ましい経済成長を遂げてきました。しかし、その後の社会情勢の変化や少子高齢化によって、男性だけでは働き手が足りず、女性にも更なる社会進出が求められるようになりました。

女性が働きながら安心して子どもを産み育てるためには、男性の家事・育児への参加が不可欠です。それに伴い、男性のパートナーに求める役割が年代によって変化してきています。妻にも家庭と仕事を両立して欲しい男性が増え、「男は仕事、女は家庭」という考えの男性が減ってきています。

率直な意見として、お互いに協力して働かないと生活が成り立たない。子育てに掛かる労力・費用の莫大さや、物価の高騰等々に対応し、安心して生活するためにも、今までの男性らしく、女性らしくという固定概念を改めて、自分らしく生きるという価値観と多様性が求められています。

これまでの日本では、政治、経済のリーダーの大半を男性が占め社会を作り上げてきた結果、男性らしくあることへの窮屈さで、多くの男性が長時間労働を強いられ、育児や私生活を犠牲にしていたり、生きづらさを相談することが出来なかつたりすることも事実です。従来から、男性の自殺や孤独死の割合が女性よりも多い傾向にあることにも関連付けられるのではないのでしょうか。

日本の社会が持続可能に発展して行くためにも、男女が対等な立場で様々な分野に参画し、家庭の責任も平等に担う、*ジェンダー平等は不可欠と思います。

(編集委員T)

*ジェンダー平等は国連の「持続可能な開発目標 (SDGs)」における目標の一つです。

図書紹介



男が心配

出版社：PHP 新書 著者：奥田祥子

恋愛・結婚から、定年後の生き方、職場での出世競争、わが子の育児、老親や妻の介護まで、人生の節目で男性たちが直面する問題を取り上げ、理不尽ともいえる現実がリアルに綴られた一冊です。

三木市男女共同参画センター

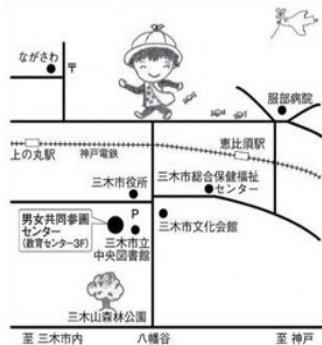
愛称 “こらぼーよ”

三木市福井 1933-12
三木市立教育センター 3階

TEL&FAX : 0794-89-2331

開館日時：月曜～金曜 9時～17時
(※祝日を除く)

企画・編集・情報誌“こらぼーよ”編集グループ
発行：三木市男女共同参画センター



編集後記

遊んでいる息子(小3)に「お姉ちゃんは今月経中だから先にお風呂に入りなさい」と声をかけたところ、「先に入らなくていいなんてずるい！ぼくもゲッケーしたい！！」との返事が。

その後、こんこんと月経のつらさについて語ったのは言うまでもありません。

(編集委員M)

こらぼーよ 三木市
ホームページからも
ご覧いただけます